

# 奈良県「いのちの教育」プログラム

私たち人間は、地球上に暮らす多くの生き物との関わりの中で生きています。奈良県うだ・アニマルパークで実施している「いのちの教育」プログラムでは、私たちと動物との関わりに気づき、動物にも感情や要求（ニーズ）があるということ、動物の「いのち」が私たち人間と同じであることを感じ、それぞれの動物の「いのち」がよりよく生きるために私たちがどのような責任を負い、果たすべきなのかを考えます。

本プログラムを通じて、私たち人間があらゆる「いのち」に共感し、「いのち」を大切にしようとする心を育む教育を目指しています。



大型張り子を使用した教育プログラム



## ① ねらい

- 動物への思いやりを深め、「いのち」の大切さを実感させる。
- 他者との関わりを深めながら、情操を豊かにする。
- 野生動物を含む自然環境の保護についての意識を高める。

## ② 内容

- 対象者の年齢や習熟度に応じ、「いのちの教育プログラム」を軸とする学習プログラムを提供する。
- 「いのちの教育プログラム」に関わる研修会・講演会の実施や、取組の成果・研究発表などの情報を発信する。

## ③ 効果

- 他者へ共感する感性と自他の生命を尊重する態度の育成
- 思いやりや協調性、道徳的心情などの豊かな人間性の基盤の構築
- 社会的規範意識の醸成及び向上

# 《「いのちの教育」小学生プログラムの内容》

近年、子どもを取り巻く社会や自然の環境が大きく変化してきています。その結果、動植物をはじめとする自然に、直接触れたり関わったりする経験が極めて少なくなっていることや、生命の尊さを実感することができにくいという状況が生まれてきています。

一方、特に小学校の教科等においては、文部科学省学習指導要領でも、生命に関する学習活動や他者への理解や思いやりの心を醸成する道徳教育を充実することも求められています。この教育課題を踏まえ、「自分を含めたあらゆるいのちを尊重し、愛し、共感する」教育へのアプローチとして、最も子どもが心を開きやすい「動物・自然」をモチーフとした手法は、子どもとあらゆる「いのち」とをつなぐ効果を期待されています。

## プログラムⅠ 「私たちと動物との関わり（気づき）」

子ども達が大型の張り子を「街」「牧場」「自然」の3つのすみかに運びます。

「街」で暮らし、人間が最後まで世話をする【ペット】。「牧場」で暮らし、人間の役に立つために育てられている動物、人間が管理し、世話をしている【家畜】。「自然」の中で暮らし、人間が世話をせず自分の力で生きている【野生動物】。それぞれの環境や、人間とどのようにつながっているのかということに、自ら「気づく」内容になっています。

## プログラムⅡ 「動物と私たちのいのちは同じ（共感）」

動物にも人間と同じように感情があり、それぞれの動物には、私たちと同じように「生きるために必要なもの（ニーズ）」があり、気持ちがあることを学びます。

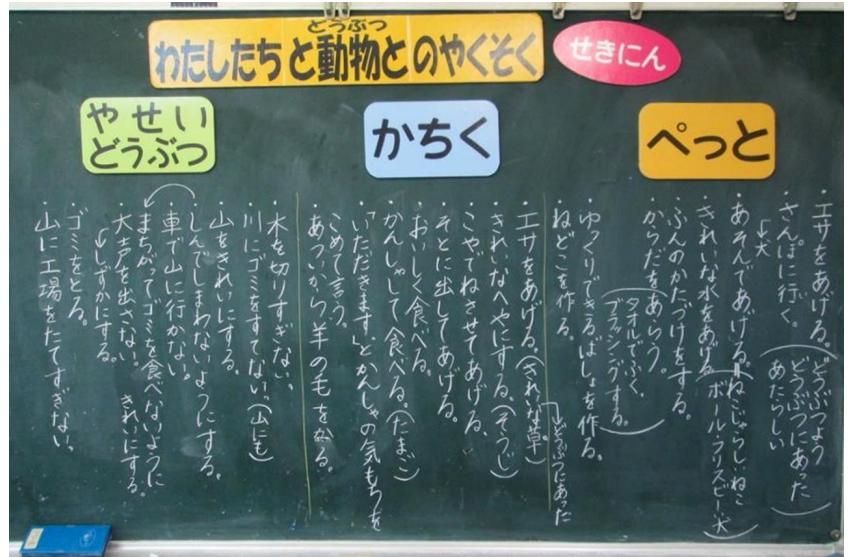
「生きている証拠」を探し、「いのち」を実感できるものとして拡張心音計を用いて子どもたちひとりひとりの心臓の音を聞き比べ、同じ人間でもひとりひとりの心音に違いがあることを理解していきます。こうした体験をとおして、人間と動物が同じたったひとつの「いのち」を持っていて、「こんなふうに暮らしたい」というニーズを持っている存在であるという「共感」を生みます。

## プログラムⅢ 「動物のために私たちができること（責任）」

私たちの周りにいる動物たちが幸せに暮らすためにはどんなことができるのか、動物たちが健康で幸せに暮らせるように、私たち人間が果たすべき「責任」について考えます。

ここでは、自分たちが動物の「いのち」のために果たすことができる「責任」を「動物とのやくそく」として認識させ、身近なことから自分たちができることを考えます。

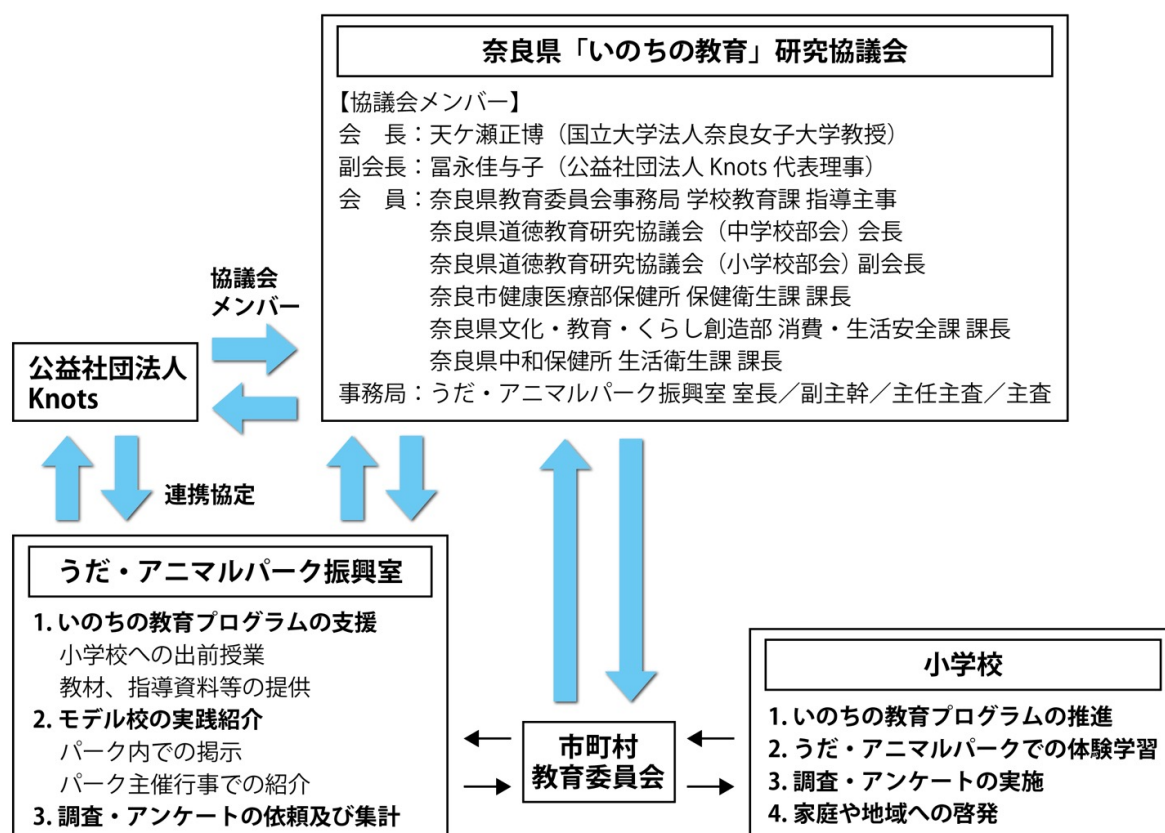
ただ単に、「動物のお世話」という視点だけではなく、動物への思いやりが深まりや「いのち」の大切さを実感させることで、思いやりや協調性、道徳的心情などの豊かな人間性の基盤の構築がなされ、野生動物を含む自然環境の保護や食育についての意識を高めることができたことを示唆しています。



## 《奈良県での「いのちの教育」プログラム実施体制》

奈良県「いのちの教育」プログラムは、奈良県教育委員会から同プログラムの実施を専任とする現役の小学校教員を派遣し、動物愛護センターと連携してプログラムを実施しており、各学校からの実施依頼に関しては、市町村の教育委員会を通してうだ・アニマルパーク振興室に依頼が来るという連携体制をとっています。奈良県「いのちの教育」プログラムは平成24年4月から実施が開始され、同年6月に奈良県と当法人が連携協定を締結し、強固な連携体制でプログラム内容の構築と普及展開を行ってきました。

また、奈良県うだ・アニマルパーク振興室が実施している「いのちの教育」の幅広い普及と展開、そして評価の方策を研究協議し、広く情報発信することを目的として、奈良県「いのちの教育」研究協議会（会長：国立大学法人奈良女子大学・天ヶ瀬正博教授／副会長：当法人代表理事・冨永佳与子）を設置し、定期的に協議を行っています。



「子どもたちがしっかり集中して受講している」「子どもたち自身の意見がたくさん引き出されている」「食育や環境問題にまで広範囲にわたって学ぶことができる内容」という評価が先生たちの間で口コミで広がり、実施を希望するモデル校は、県下190余りの小学校の内60校に普及展開することになりました。そして、令和4年度からは教員3名体制として、すでに約85の小学校がモデル校になっており、これまでに70%以上の小学校が一度はこのプログラムを受けたことがあるという実績を挙げています。

年度（直近4年間）	実施校数	クラス数	参加者数
令和元年	60	148	4,008
令和2年	63	156	3,923
令和3年	67	164	4,269
令和4年（現在）	（モデル校）85	-	-

## 《評価・分析》

奈良県「いのちの教育」プログラムでは、実施授業全てにおいて、子どもたちの意識の変容を掴み、今後のプログラムの改善を行うため、プログラムの事前・事後にアンケートを行って評価・分析を行っています。分析の方法については、アンケートの自由記述欄に記載されているキーワードを抜き出し、①生活 ②ところ ③環境 ④その他の4つの項目に分類して意識の変化を数値化しています。

事前事後では「生活」に関する記述が2倍近く伸びており、「食べ物がないと困る」「セーターを着ることができない」など、家畜と生活でつながっているという側面での意見が多くあげられています。また「ペットがいないと寂しい」「癒されない」など、心の「つながり」にも着目する児童が増加しており、動物も人間と同じように「いのち」があること「気持ち」があることを確認し、「ところ」に関する記述に変化が現れ、動物のニーズに関する項目でも大きな変化を見て取ることができました。

また、「どうぶつのために何かできることがありますか？」という問いに対しては、ペットに対して「最後まで責任をもって飼う」、家畜に対しては「感謝して食べる」、野生動物に対しては「自然を守る」「壊さない」など、通常の授業ではなかなか難しいと言われている「食育」や「自然環境」についての記述が増えていることに、「いのちの教育」研究協議会において教育関係者の皆様も驚いておられ、教育効果として注目されています。

### 【授業を受けたクラスの担当教員からのコメント（抜粋）】

#### 《手法》

- このホワイトボードに書くという行為によって、手を上げて意見を言うのが苦手な子どもでも書くことで意見を出しやすくなり、書いた意見を発表したり、ふりかえりの記録に意見を残すことで、授業と一緒に参加したという実感を生む効果がある。
- 拡張心音計の音を聞くことで、具体的に「いのち」についてイメージできたようだ。

#### 《内容》

- 道徳だけでなく、国語や図工、生活、学活など、広範囲な学びにつながる内容である。

#### 《子ども達の反応》

- 子どもたちがしっかり集中して受講している。
- 子どもたち自身の意見がたくさん引き出されている。
- 食育や環境問題にまで広範囲にわたって学ぶことができる内容。
- 人間と動物の問題を自分のこととして捉えるようになった。
- 給食を残さずきれいに食べる児童が増えた。

## 《「いのちの教育」中高生プログラム》

小学生プログラムを受講した子どもたちが成長し、社会に出てさまざまな課題に直面したときに、社会の一員として自らのこととして課題に向き合うことができる人材育成のために、「いのちの教育」中高生プログラムを実施しています。

人と動物との関わりやニーズを理解するための動物福祉について知ってもらい、動物に果たす人の責任について考え、社会の一員として「いのち」を大切にする社会を目指して、自分にできることを考えるプログラムになっています。